



114
A1430



新聞抄譯

英政府ノ國債消却法ヲ論ス 紐育銀行雜誌抄譯
 財金法ノ新案 倫敦「エコノミスト」新聞抄譯
 露國紙幣ノ派通 同
 農事ノ制限世上ノ隆盛 同
 正貨派出ノ辨 橫濱「チャッパンガゼット」新聞抄譯
 讀十三年度歳入出豫算書 同
 日本ノ理財論 倫敦「インディペンデント」新聞抄譯
 金札引換公債証書ノ規則公布ノ事 橫濱「チャッパンガゼット」新聞抄譯

大正十一年四月
限正
侯爵郵寄
贈

4149



紐育銀行雜誌

千八百八十年八月刊行

英政府ノ國債消却法ヲ論ス

千八百五十三年「グラツドストーン」氏ノ内閣ニアリシ時百
 封度三分利付ノ公債証書ヲ此度更ニ百十封度トナシ其
 利息ノ二分半ニ引直シ來ル千八百九十四年ニ至ルマテ
 ニ消却ス可キ「¹」各公債証書持主ニ公布セシ「¹」ノ議案
 フ國會議院ニ下附シ之カ認可ノ得タリ是レ即チ年利三
 封度フシテニ封度十五志ニ減縮セシムルモノナリ其持
 主カ益トスル所ノモノハ元金ニ其一割ヲ増加セシ「¹」ア
 リ「¹」苟モ元金拂渡サレ「¹」「¹」アラハ然ルニ其拂渡ノ事ハ常ニ
 政府ノ意ニ存スレハ或ハ行ハレサル「¹」アル可シ支レ此

ノ如キ改正ヲ施行シ以テグラツドストン氏カ得ントシ
タル金額ハ四百万封度ニ超過セシモノト云フ
又右同時ニ於テグラツドストン氏ハ百封度ノ大藏省証
書ノ利息三分ヲ來ル千八百六十四年ニ至ル間二分ト四
分ノ三ニ引直シ其後千八百七十四年ニ至ル間又更
ニ二分半トナレ而シテ後ヲ持主元金ノ返還ヲ請ハ、政府
其時ノ都合ヲ以テ並價ニテ還附スルヲモアル可レ又ハ
双方ノ都合ヲ以テ更ニ延期ニ附スルヲモアル可キノ
ヲ右租稅院証書持主ニ公布センノ議案ヲ國會議院ニ
下附シ之カ認可ヲ得タリ但シ大藏省官吏ハ右等ノ次第
ヲ公債証書ニ記載ス可キハ最モ必要ト思考シタリ其
實
グラツドストン氏ハ消却ノ事ハ政府ノ都合ヲ以テス可
キトニ決意シ遂ニ其意ヲ以テ該証書ヲ發シタリ是レカ

為メ其三分利付ノ公債証書持主カ引換ニ應ス可キ金額
ハ四十一万八千三百封度ヲ以テ算セシト云フ
以上述ル所ノ二件ニ於テ其公債証書持主中ハ二分半利
付ノ引直ノ應諾セシ者アリレト虽モ下文説ノ所ノ理由
ニ依テ其引直シ利金ヲ以テ處弁サルノ危険ヲ免レタ
リ然レニ當時公債証書持主ノ幾多ハ最初ヨリ二分半ノ
割ヲ以テ拂度ナルモ大ナル損耗ヲ受ルナキト信セシカ
如レ
支レ此ノ如ク三分利付ノ英國公債証書ノ莫大ナル額ヲ
二分半ノ利息ニ引直サントセシ千八百五十三年ニ於ル
ラフドストン氏ノ企圖ハ全ク失敗ニ屬シタリト云フ是
ニ於テ今日或ルニ三ノ英國論者以謂ラク斯ル企圖ヲ遂
ルノ難易ハ舊時ト今日トヲ較スレハ其易キト舊日ニア

リ何ントナレハ千八百五十三年ノ公債証書相場ノ最高
 價ハ百〇一封度ニ居リ又其前年ナル五十二年ニ於テハ
 百〇ニ封度ニ居リ而シテ現今ノ最高價ハ右兩年ノ相場ヨ
 リ大ニ下位ニアルヲ觀レハナリト然ルニ千八百五十三
 年ニ於テグラツドストン氏カ其企圖ヲ遂ケ能ハサリシ
 ハ必スレモ其立案ニ從事セシ際ノ諸公債証書ノ最高價
 ニ屬シタルニアラヌ又必スレモ其前年ノ最高價ニ屬シ
 タルニアラサルヤ言フ待スレテ明カナルモノナリ寧ロ
 其敗ハ氏ノ荐リニ新公債証書ノ引換ニ勉勵セシ際ノ公
 債証書相場ニ屬セシモノナリ實ニ千八百五十三年以來
 其相場ハ大ニ低落ノ傾向ヲナレタリ今六年間ノ公債証
 書相場ヲ示ス下左ノ如シ

年 度 最高相場 最低相場

千八百五十一年	九九、八分ノ一	九五、八分ノ五
全 五十二年	一〇、二	九五、八分ノ七
全 五十三年	一〇、一	九〇、四分ノ三
全 五十四年	九五、八分ノ七	八五、八分ノ一
全 五十五年	九三、四分ノ三	八六、四分ノ一
全 五十六年	九五、八分ノ七	八五、四分ノ三

右述ル所ノ約言スレハグラツドストン氏カ企圖ニ際シ
 恰モ加里福尼及ヒ豫斯特里亚ノ二所ニ於テ金鑛ノ發見
 アリ其カ影響タルヤ各種公債証書ノ相場上一變遷ヲ來
 タシ其相場ハ俄ニ下落ノ姿ヲナシ金利ハ其下落ニ連レ
 テ騰貴ノ模様ヲ現ハセリ是レ全ク英人ノ意表 出テタ
 ルモノナリキ蓋シ其所以ハ國會議院ニ於テ議算ガグラ
 ツドストン氏立案ノ公債募集議案ニ就キ開論セシトニ

由テ知ル所ナリ抑々新通貨ノ世上ニ出ツルニ當テヤ物
價俄然トレテ騰貴シ諸般ノ事業急忙ヲ告ケ是カ為メ資
本ノ需用大ニ起リ而メ其ヨリ生スル所ノ利益ツマナラ
サリレフ以テ金利モ亦大ニ騰貴シタリ故ニ突ニ千八百
五十三年ハ英國ニ於テハ其公債ヲ消却スルノ好時期ニ
アラスレテ甚々不幸ナル時ヲ證表シタリ是レ完クグ
ツドストレン氏カ取リテ理由ナリ然リト虽モ人世ニ
慶ニテ豫メ將來ノ事ヲ言フモノハ英識深知ク人ニアラ
サレハ亦難矣

五月一日刊行ノ倫敦「エコノミスト」新誌ニ曰ク近日將ニ
驛逋局貯金銀行條例ノ改正アラントス然ル片ハ公債証
書利息上ニ於テ大變動ヲ見ルニ至レトアラサルモ多少
變動ヲ見ル可キナリト因テ記者曰ク今度ノ改正條例ハ

各貯金銀行ニ於テ預ケ金額ノ區域ヲ大ニ縮減シ而メ其
改正定額ヲ超過スル預金ヲ申出テ以テ政府ノ抵当ヲ要
スル者ハハ二十封度ヨリ百封度ニ至レマテハ二分半ノ
公債証書ヲ下附アラント欲スト又奇怪ナル哉「エコノ
ミスト」記者ノ言ニ曰ク其公債証書ハ並價ヲ以テ下附ニ
ナスレテ當日ノ相場若シクハ前一週間ノ平均相場ヲ
以テ下附ナラント欲スト記者果シテ政府ハ當日又ハ
前一週間ノ平均相場ヲ以テ公債証書ヲ發シテ得ル所
ルモノト思惟スル手抑々三分ノ利息ヲレテ二分半ニ引
直スノ目途ハ言ヲ待タスレテ小金預ケ主カ敢テ小額公
債証書ヲ取ラサルヲ得サルト且ツ二分半利付ヲ超過シ
タル小額公債証書ヲ發セサルトニ由テ預ケ主ラレテ敢
テ二分半ノ利金ヲ以テ満足セシムル乎左ナクハ無抵当

ニテ預テシユルハ政府ノ本意ニアラスヤ今若シ此法ヲ
実施スルノ日アラハ勿論其百封度以上ノ金額ヲ政府ニ
預テ得可キ餘カアル者ト僅ニ二十封度計ヲ預テ得可キ
者トノ間ニ甚レキ狂庭ヲ見ルノ不幸ナキニアラサレハ
今必ス之ヲ施行ス可キモノニラス然レモ其實右狂庭
ヨリ一層甚レキ不幸既ニ成立スルモノアルハ何ソヤ政
府ハ僅ニ二十封度ノ預金ヲ為ス如キ者カ得可キ小額公
債証書ヲ發セサレハ斯ル預テ主ハ終始何等ノ公債証書
ヲ得ルト能ハサルモノ是レナリ

又倫敦タイムズ新聞ハ四月二十七日刊行ノ貨幣相場ノ
部ニ於テ二分半利付ノ公債証書ヲ製シ其ヲ市場相場ニ
テハナク並價ヲ以テ發ス可シ左スレハ右公債募集ニ應
シタル金具ヲ以テ三分利付ノ公債証書ヲ買上レハ不日

ニシテ巨萬ノ公債証書ヲ買上ケ得可ク如ク信シテ此策
ヲ採ラントテ政府ニ勸申シタリ而シテ同新聞ハ曾テロ
ルド、井コンスフ井ルド氏カ施政ノ時其公債募集方法
宜ロレキヲ得タルヲ以テ出納証券及ヒ大藏省証券ヲ以
テ二分半ヨリ尚ホモ低利ヲ以テ巨額ヲ借り受ケタル
且ツ今佛國ニ於ケル如ク公債証書ヲ容易ニ僅ニ費力ア
ルモノモ得タル可キ様ニナシ以テ二分半ノ低利ニテ久
シキ年月ノ間公債ヲ募リ得タリシテヲ説キタリ
夫レ大貌利顛政府カ其國債ヲ却セント欲スルヤ毎ニ
人民ノ公債證書所持額ニ準シ歳入税ヲ徵收レ以テ二分
半或ハ之レヨリ一層低廉ナル割合ニテ其利金ヲ仕拂ヒ
人民ヲシテ敢テ之ニ服受セシユルト往々是レアリ蓋シ
歳入税ヲ徵收スルノ権カヲ政府ノ掌中ニ措クモノハ獨

歳
月

ノ英國政府ノミナラス又歐洲二三ノ政府ニ至テモ邦家
萬不得止ノ事生スル時ハ皆ケ歳入税ヲ徴收スルナリ英
國ニ於テハ國會議院一タヒ歳入税ヲ徴收セサルヲ得サ
ルノ場合ト認ムルキハ一封度ニ就キ少ナキハ五片多キ
ハ五志ノ甚レキヲ課シ且ツ二分半利付ナル一種ノ無稅
公債證書ヲ發スルヲアリ抑々現時ノ英國ノ氣運タルヤ
平穩昌盛ニ屬シ國帑ノ欠乏ヲ歳入税ニ訴フ可キ果膽ナ
ク處置ヲ断行ス可キ秋ニアラス又將來斯レ不祥ナキニ
庶幾ラン然レモ今日國債既ニ嵩積シテ各種ノ租税ヲ以
テ稍ク其利金ノ支辨ニ充ツルノ場合ニアレハ邦家一朝
兵馬ノ事アリ又ハ自餘ノ央禍ニ罹ラハ遂ニ利金支弁ノ
途壅塞スルニ至ルヤ昭々タリ知ラス天下ハ活機ナルヤ
將々死物ナルヤヲ

堀 達 譯

倫敦「エコノミスト」新誌鈔譯

千八百八十年八月二十八日刊行

貯金法ノ新案

近頃「フォセツト」氏ハ經驗上ヨリ貧民社會ノ間ニ儉約ノ
風ヲ振起スルノ新案ヲ編出サレタル由ニテ其趣向ハ
四角ナル目數十ニアル界紙ヲ製シ之ヲ貧民ノ貯金ヲナ
サントスルモノニハ無代價ニテ惠授シ其界紙ハ貧民カ
預ノ金ヲ申出ル都度金額ニ準シ金一片受取証ノ印ヲ捺
スモノトス例ハ一片ナレハ一日へ受取印ヲ捺シニ片
ナレハ二日へ捺ス勘定ニテ十二ノ目々悉皆填マル片始
メテ一志ノ預リ金トナシテ驛遞局貯金銀行ニテ預リ置
ク趣向トノナリ然ルキハ老弱男女ヲ向ハス一片タリ

大 歳

ト虽ニ餘裕アルキ其金ト界紙トヲ持卷レテ受取証ノ印ヲ受ケニ行ケハ現行各小額貯金銀行ニテ取扱フ如キ面倒ナル手教モ掛ラスレテ容易ニ小額ノ金錢ヲ貯ルカ出来レ随テ従来面倒ノ恐レテ無用ノ物ニ不時ニ金錢ヲ費セシ如キ弊風モ薄ラキ儉約ノ美風貧民社會ニ起ル可シ全体此法ハ、フオセツト凡カ富者ヲ富マスヨリ貧者ヲ富マス方ニ思考ヲ運ラサレメルモノナレハ實ニ貯金銀行ノ主意ニ適順スルモノニレテ今ヨリ后ナ貯金銀行ノ盛大ニ趣ク、目ヲ刮シテ待ツ可キナリ因ニ曰フ此頃英倫、威爾斯ノ二國ニ於テ五州又蘇格蘭愛倫ノ二國ニ於テハ四州都合九州カ右新案ヲ實驗スルヲ決セシ由右諸州ニ於テ其効ヲ顕スアラハ國國皆ナ之ヲ履行スルニ至ルノ日亦遠キニアラサル可シ

驛遞局貯金銀行

近頃ニ院ニテ出版ナリシ報告書中ニ驛遞局貯金銀行ニ於テ調査セシ千八百七十九年度ノ金額一志以上ノ預金及ヒ其毎預ケ金額人数ト惣入数トノ率ヲ取リタル豫算表ヲ掲載ス但シ其豫算表ハ三日間ニ實際預金ヲ申出シモノヲ根據トナシ起算セシモノト云フ今其表ヲ鈔板スルヲ左ノ如シ

預ケ金高	人数	率
一志	一六八、四五五	五〇三
二志	二〇八、三〇七	六、二二
三志	一三三、七七〇	四、〇〇
四志	九八、〇九二	二、九三

五志	二五七、一〇五	七、六八
六志	七七、一二一	二、三〇
七志	五三、八六六	一、六〇
八志	五四、二、六三	一、六二
九志	一七、六九〇	五、三
十志	三五三、二〇八	一〇、五五
從十一志 至十五志	一五二、九五一	四、五七
從十二志 至十六志	四二四、三六七	一、二、六八
從一、封度一志 至五、封度	九一三、八三〇	二七、三〇
從五、封度一志 至十、封度	二四九、五五二	七、四六
從十、封度一志 至二十、封度	一一八、九六二	三、五六
從二十、封度一志 至三十、封度	六二、〇一五	一、八五
三十封度以上	四、一七四	一、二

預入教計

三、三四七、八二八

是ニ由テ之ヲ觀レハ預ケ金ヲ為スモノ、多数ハ一、封度前後ニアルカ如シ故ニ若シ預ケ金額ニ制限ノ區域ヲ廣クハ驛遞局貯金銀行ノ預ケ金額額ニ増殖言或ハ信ヲシトス可カラサルニ似タリト云フ事ハ、預ケ金ハ公債証書ヲ買フトトセハ、タナラサル可キト虽モ其相場ノ浮沈昂低ニ至テハ持至自ラ其危険ヲ負擔セサルヲ得ス而シテ現今政府カ其危険ヲ負擔スルカ如キハ息止セシ蓋シ驛遞局カ公債証書ヲ買入フ人民ニ勸奨スルニ由テ國家ノ利益ヲ増殖スルヲ亦大ナラン

五志	二五七、一〇五	七、六八
六志	七七、一二一	二、三〇
七志	五三、八六六	一、六〇
八志	五四、二、六三	一、六二
九志	一七、七九〇	、五三
十志	三五三、二〇八	一〇、五五
從十一志 至十五志	一五二、九五一	四、五七
從一六志 至一七志	四二四、三六七	一、二、六八
從一五志 至一六志	九一三、八三〇	二七、三〇
從一四志 至一五志	二四九、五五二	七、四六
從一三志 至一四志	一一八、九六二	三、五六
從一二志 至一三志	六二、〇一五	一、八五
三十封度以上	四、一七四	一、二

預入数計

三、三四七、八二八

是ニ由テ之ヲ觀レハ預ケ金ヲ為スモノ、多数ハ一封度前後ニアルカ如シ故ニ若シ預ケ金額ニ制限ノ區域ヲ廣クハ驛遞局貯金銀行ノ預ケ金額額ニ増殖ニ就カントノ言或ハ信ヲシトス可カラサルニ似タリ而シテ其十封度以上ノ預ケ金ハ公債証書ヲ買フトセバ預ケ主ノ利益少クナラサル可キト虽モ其相場ノ浮沈昂低ニ至テハ持主自ラ其危険ヲ負擔セサルヲ得ス而シテ現今政府カ其危険ヲ負擔スルカ如キトハ息止セシ蓋シ驛遞局カ公債証書ヲ買入フ人民ニ勸奨スルニ由テ國家ノ利益ヲ増殖スルノ亦大ナラン

評者
ノ由
買入
スル

五志	二五七、一〇五	七、六八
六志	七七、一二一	二、三〇
七志	五三、八六六	一、六〇
八志	五四、二六三	一、六二
九志	一七、七九〇	五、三
十志	三五三、二〇八	一〇、五五
從十一志	一五二、九五一	四、五七
至十五志	四二四、三六七	一、二六八
從一六志	九一三、八三〇	二七、三〇
至一七志	二四九、五五二	七、四六
從一八志	一一八、九六二	三、五六
至一九志	六二、〇一五	一、八五
從二〇志	四、一七四	一、二
至三十封度以上		

取入数計

三、三四七、八二八

是ニ由テ之ヲ觀レハ預ケ金ヲ為スモノ、多数ハ一封度前後ニアルカ如シ故ニ若シ預ケ金額ニ制限ノ區域ヲ廣クハ驛遞局貯金銀行ノ預ケ金額額ニ増殖ニ就カントノ言或ハ信ヲシトス可カラサルニ似タリ而シテ其十封度以上ノ預ケ金ハ公債証券ヲ買フトトセハ預ケ上ノ利益少クナラサル可キト虽モ其相場ノ浮沈昂低ニ至テハ持主自ラ其危険ヲ負擔セサルヲ得ス而シテ現今政府カ其危険ヲ負擔スルカ如キハ息止セシ蓋シ驛遞局カ公債証券ノ買入ヲ人民ニ勸奨スルニ由テ國家ノ利益ヲ増殖スルヲ亦大ナラン

譯者并スルニ現行英國驛遞局貯金銀行ノ利面ハ銀行ノ預ケ金ヲ以テ公債証券ヲ買入レ置キ而シテ其相場ノ浮沈昂低ヲ負擔スルカ如シ

堀達譯

倫敦「エコノミスト」新誌鈔譯

千八百八十年十月二十三日刊行

露國紙幣ノ流通

曩ニ露國ノ戦争ニ際シ一時ノ急ヲ救フ為メ不換紙幣ヲ
発行セシカ平定後消却ノ事ニ就テハ政府格別注意スル
所ナキカ如シ今平定ニ就キレ月ヨリ毎三ヶ月ノ流通紙
幣額ノ浮沈ヲ掲クテ尤ノ如シ

年 月	流 通 額	ループル
千八百七十八年七月三十一日	一、一五四、〇〇〇	〇〇〇
全 九 月 三 十 日	一、一九八、九〇〇	〇〇〇
全 十 二 月 三 十 一 日	一、一七八、〇〇〇	〇〇〇
千八百七十九年三月三十一日	一、一三二、〇〇〇	〇〇〇

大 歳

全	六月三十日	一、一三二、〇〇〇、〇〇〇
全	九月三十日	一、一四六、〇〇〇、〇〇〇
全	十二月三十一日	一、一四七、〇〇〇、〇〇〇
全	千八百八十年 三月三十一日	一、一四七、〇〇〇、〇〇〇
全	六月三十日	一、〇九五、〇〇〇、〇〇〇
全	九月三十日	一、一五〇、〇〇〇、〇〇〇

夫レ千八百七十九年五月ハ露國政府カ三億万ル^レグ
ノ國債ヲ内國ニ募リタルノ時ナルハ吾人^レ記臆スル所
ナリ此新債ハ千八百八十年五月一日マテニ漸次紙幣消
却ノ要ニ供セントノ主意ニテアリキ然ルニ露國政府ハ
右新債ヲ紙幣消却ノ途ニ供セスレテ他ノ用ニ向ケシヤ
瞭カナリ何ントナセハ紙幣流通額ヲ檢スルニ千八百七
十九年六月ヨリ本年九月ノ末ニ至ルマテ僅ニ千百万ル

一、ブル 減少ヲ呈セシノミナレハナリ本年上半期即チ
實ニ八月マテハ稍々減少ノ姿ヲ現ハセシト至モ此項ニ
至リ再々増加ノ勢ヲ為シ来レリ是レ全ク露國凶饉ニ罹
リ二三地方ノ人民其租税ヲ完納スル^レ能ハサルヨリシ
テ復々財政困難ヲ惹起シ遂ニ紙幣増發ニ訴ヘサルヲ得
サレニ至レルモノナリ

以多利國幣制改革ノ風説

此項二三地方ヨリ余輩ニ報道シ来テ曰ク頃日以國政府
ニ於テ國會議院ノ再會ヲ待テ支ノ強迫手段ヲ以テ發行
シタル紙幣廢止ノ議案ヲ論議セシムルノ評議頻リナリ
ト余輩ノ見ヲ以テスルハ斯ル評議タルヤ必ス巨額ノ國
債ヲ起スノ^レナル可シ而メ同政府ハ頻年國幣不足ヲ告

ケ且ツ夫ノ議論紛々タル磨穀稅廢止ノ議今ニ決セサル
アルニ際シ大藏卿カ幣制ノ改革ヲ首唱セントスルハ実
ニ易マノ事ニアラサルナリ然レ氏今以國カ硬貨ノ制ニ
據ラントスルハ該國ノ利益々レハ言ヲ待マサレト改革
ヲ施行センニハ信実ナル賛成者ヲ得ルコソ肝要ナリ是
レヨリ先キ以國政府ハ既ニ多少幣制改革ニ着手セサル
ヲ得サル場合ニアリタルモノナルハ乃チ近來羅甸同盟
諸邦ニ流通スル小銀貨ノ以國ニ屬スル分貨返サ、ル
可カラサルノ義務ヲ負擔セルモノ是レナリ
佛蘭西銀行ニアルモノ、ミニテ既ニ二百六
超過スト云フ今小銀貨買返レノ舉ヲ前ニ述フル所ノ紙
幣廢止ノ美舉ニ比セハ元論些事ニ過キサルナリ政府モ
ホ一々モ財政ノ問題ヲ發スルアルヤ斷然大ニ為ス所ア

佛蘭西銀行ニアルモノ、ミニテ既ニ二百六

ラント歎スルカ如レ左レハ政府ノ發議孰レニ出ツルヤ
未タ知ラスト虽モ此度ノ以國政府ノ舉動ハ世人ノ大ニ
注目スル所ナリ何ントナレハ政府ノ發議議院ノ容レル
所トナラハ全塊相場上ニ大ナル影響ヲ未タスアレハナ
リ

大蔵省

ケ且ツ夫ノ議論紛々タル磨穀稅廢止ノ議今ニ決セサル
アルニ際シ大藏卿カ幣制ノ改革ヲ首唱セントスルハ実
ニ易マノ事ニアラサルナリ然レモ今以國カ硬貨ノ制ニ
據ラントスルハ該國ノ利益々レハ言ヲ待タサレト改革
ヲ施行センニハ信実ナル賛成者ヲ得ルコソ肝要ナリ是
レヨリ先キ以國政府ハ既ニ多少幣制改革ニ着手セサル
ヲ得サル場合ニアリタルモノナルハ乃チ近來羅甸同盟
諸邦ニ流通スル小銀貨ノ以國ニ屬スル分貨返サ、ル
可カラサルノ義務ヲ負擔セルモノ是レナリ其小銀貨ノ
佛蘭西銀行ニアルモノ、ミニテ既ニ二百六十萬封度ヲ
超過スト云フ今小銀貨買返レノ舉ヲ前ニ述フル所ノ紙
幣廢止ノ美舉ニ比セハ元論此事ニ過キサルナリ政府モ
亦一々モ財政ノ問題ヲ發スルアルヤ斷然大ニ為ス所ア

譯者按
銀貨買
返ノ結盟

ラント歟スルカ如レ左レハ政府ノ發議執レニ出ツルヤ
未タ知ラスト虽モ此度ノ以國政府ノ舉動ハ世人ノ大ニ
注目スル所ナリ何ントナレハ政府ノ發議議院ノ容レル
所トナラハ金塊相場上ニ大ナル影響ヲ未タスアレハナ
リ

大
裁
省

ケ且ツ夫ノ議論紛々タル磨穀稅廢止ノ議今ニ決セサル
アルニ際ニ大藏卿カ幣制ノ改革ヲ首唱セントスルハ実
ニ易マノ事ニアラサルナリ然レモ今以國カ硬貨ノ制ニ
據ラントスルハ該國ノ利益々レハ言ヲ待メサレト改革
ヲ施行センニハ信實ナル賛成者ヲ得ルコソ肝要ナリ是
レヨリ先キ以國政府ハ既ニ多少幣制改革ニ着手セサル
ヲ得ヤル場合ニアリタルモノナルハ乃チ近來羅甸同盟
諸邦ニ流通スル小銀貨ノ以國ニ屬スル分^ハ眞返サハル
可カラサルノ義務ヲ負擔セルモノ是レナリ其小銀貨ノ
^{佛蘭西銀行ニアルモノ、ミニテ既ニ二百六十萬封度ヲ}
超過スト云フ今小銀貨買返レノ舉ヲ前ニ述フル所ノ紙
幣廢止ノ美舉ニ比セハ元論些事ニ過キサリナリ政府モ
亦一々モ財政ノ問題ヲ發スルアルヤ斷然大ニ為ス所ア

譯者按スルニ以國政府ハ實テ小
銀貨ヲ買返スル約ヲ羅甸同盟諸
邦ニ結盟セシモノナリ

ラント歎スルカ如レ左レハ政府ノ發議孰レニ出ツルヤ
未タ知ラスト虽モ此度ノ以國政府ノ舉動ハ世人ノ大ニ
注目スル所ナリ何ントナレハ政府ノ發議議院ノ容レル
所トナラハ金塊相場上ニ大ナル影響ヲ未ダスアレハナ
リ

大
歳
百

峯源次郎譯

一千八百八十年十月十六日倫敦刊行「イコノミスト」新
聞抄譯

農事ノ制限世上ノ隆盛

我合同王國ニ在テ地代ヲ低下スルノ見込ヲ立テント欲
セハ先ツ預メ其結果ノ我カ全國ノ社會ニ汎及スル如何
ヲ觀察スレテ以テ至要トセサルニカラサルナリ而レテ
縱ヘ其十分精密ナル計算ヲ為スハ能ハサル所ナリト至
凡其境域ヲ証明スルハ復々難カラサルナリ

預メ右ノ見込ヲ立テント欲セハ地代ヲ以テ之レカ根據
トセサルヘカラス是レ至當ノ見解ナリ附録甲号(此附
録甲号ナルモ本新紙ニ掲載セス又)歳入税ノ表ニ登記
セシムル一ヶ年ノ地代額ハ較々精細明白ナルカ故ニ今之レ

大歳

ヲ茲ニ引証ス

此表ハ土地貴族ノ領地、地所讓渡ニ免許状等ヨリ生スル金額ヲ合算スルモノナレモ實際上コレヲ以テ地代ナリトシテ論及スルモ敢テ不可ナル所ナキナリ一千八百七十八年ノ地代ハ曾テ減額ノ制限ヲ蒙ラサリシカ故ニ今コレヲ以テ引証スヘシ即チ其金額六千九百万封度ナリ
余輩若シ今右金額六千九百万封度ヨリ其計割ヲ減去スルト假定スレハ先ツ期望サレタル見込ニ大過ナカルヘシ此ニ割ノ高ハ則チ一千三百八拾万封度ナリ實際ニ於テ今此一千三百八拾万封度ノ減額アルモノトスレハ則チ地主ノ損失則チ一千三百八拾万封度ナリ扱テ右減額ノ為ニ社會上一大變更ヲ生スヘケレモ今敢テ一一コレ

ヲ茲ニ論及セス余輩ノ論點ヲシテ單ニ理財ノ一點ニ止マラシムヘシ夫レ地主社會難渋スレハ隨テ自餘ノ社會モ共ニ難渋ニ及ルヘシ是レ地主社會難渋スルヲ以テ物品ヲ買フト少ナク其商業社會ニ向テ金錢ヲ費用スルト少ナカルハシ金融右ノ如クニシテ減縮スル中ハ隨テ商人ノ利益モ減少シテ一割ノ減縮スヘシ此一割ノ金額ヲ以テ凡ソ一百四拾万封度ト預定シテ之レヲ一般全國ノ損失ニ算入スルモノト看做スヘシ

右ノ如キ減縮ハ獨リ地主ノ地代ニ於ケルノミナラス下作人ノ利益ニ於ケルモ同様ノ減縮アルカ如ク然リ然レモ下作人ノ利益ノ減縮ハ地代ノ減縮ト同様ニハ非サルナリ某一个ノ商業ニ於テ生シタル利益ハ自餘ノ商業ニ於テ生シタル利益ニ關係アルハ平生ノ事柄ニ由テ觀察

スルヲ得ヘシ然ルニ今余輩ノ假定シタル地代ノ減額々
ルヤ為ニ必ラス自餘ノ商業ニ波及スヘキナレモ其減縮
高タルヤ些少ニシテ自餘普通ノ商業上ノ安寧幸福ニ影
響ヲ及ボス為ニハ其勢力ノ足ラサルヲ見ルナリ
下作者ノ利益タルヤ自餘ノ商業ニ於ケル利益ヨリモ巨
大ナリトハ考定シ難キノミナラス今却テ其自餘ノ商業
ノ利益ヨリモ些少ナルヲ証明スルノ理由アルヲ見ルナ
リ然ラハ則テ其少利益タル現今同様ニ全ク存シ能ハ
サルモ是レヨリ多分ノ下落ナキハ保証スヘキナリ
若シ右ノ下落タルヤ愈々低下ニ至ルキハ下作者輩其農
業ヲ廢止スヘシ而シテ此下作者ノ代リニ農業ヲ作ス人
ト虫モ自餘ノ營業ノ利益ニ比シテ農業ノ利益甚々些少
ナルニ於テハ固ヨリ農業ヲ好マサルヘシ故ニ地代改正

ニ從テ下作者ノ利益ニ於テ減縮ヲ為サント欲ハ余輩ハ
五分ノ減縮ヲ為スヲ以テ必ラス充分ナルヘシト信ス
附録乙号ニ於ケル下作者利益ノ表ハ下作者ノ拂フ所ノ
地代ニ根據スルカ故ニ右地代ト同數額ニ至ルヲ見ル故
ニ下作者ノ利益ヲ以テ六十九万封度トスレハ此内五
分ノ減縮即チ凡ソ三百五拾万封度ノ減縮ヲ上スヘシ若
シ此金額ヲシテ地主ノ地代ニ於ケル減縮ノ如ク之レヲ
賣買ニ費用スル事ナク通用上ニ檢約ヲ為シ随テ商業上
ノ利益ニ減却ヲ来ス事ト假定スレハ下作者商賈一同ノ
利益上ニ於ケル總体ノ減縮高ハ四百万封度ニ上ラサル
ヘシ
今ヤ右ノ減額ヲ以テ歳入税減額ニ加フレハ即チ地主下
作者商賈等ノ一テ年ニ於ケル合同損失ヲ合算スレハ凡

ソ一千九百万封度ナリ然レモ論歩ラシテ此處ニ止マラ
シムレハ偏見タルヲ免カレサルナリ抑モ地代ノ減縮ハ
耕作物ノ價直上ニ於ケル減縮ニ根據スヘキヲ觀察セ
ルハカラサルナリ
夫レ我カ英國ニ費用スル耕作物ノ一部分ハ内國ニ産シ
テ他ノ一部分ハ外國ヨリノ輸入ナリ今其耕作物ノ外國
ヨリ輸入スル分ニ其價直ノ減縮ヲ期望スト至モ然レモ
外國輸入分ノ價直ハ内國生産分ノ價直ヲ左右スルカ故
ニ為ニ價直ノ総下落セン事期スヘキナリ然レモ消費物
品中ニハ低價ノモノモアルカ故ニ物品ニ由リテハ其價
直ニ交換ヲ来ス事ハ非サルヘキナリ故ニ余輩今若シ五
分ノ減縮ヲ以テ全体ノ減縮ヲ預算セハ不適當ナル境界
ナラサルヘシト信ス

有名ナル「ケヤド」氏ハ右ノ主義ニ付テ我カ國內ニ消費ス
ル耕作物ノ價直ヲ一ヶ年四億万封度ナリト算定セルヲ
見ル此金額ノ五分ハ則チ二十万封度ナルヘシ
右ノ如クナルキハ當今ノ制限法ヲ設置セサルモ敢テ全
國一般ニ些少ノ損失ナカルヘシト決定スルヲ得ルニ至
ルハ實ニ意外ノ憑據ヲ得タリト云フヘシ且右ノ制限
法ヲ設置セサルハ却テ全國ノ贏利トナルカ如ク然リ
抑モ耕作物ノ價直ニ於ケル減縮タルヤ余輩ノ假定セシ
高ヨリモ巨大ナレハ一般全國ノ贏利タルヤ實ニ巨大ニ
シテ而シテ一人ニハ損失アルモ社會ニ在テ贏利ナレ
ハ其損失ヲ償フニ足ルヘシ然レモ耕作物ノ價直ハ獨リ
五分丈ノ減縮ニシテ地代ノ減縮ハ二割ト云フヘキ非サ
ルヘシ

故ニ余輩ハ地代ニ於ケル結局ノ減縮ノ以テニ割ナルヘ
シトハ思考ニ能ハサルナリ譬ヘ其減縮ヲシテ一時二割
ナラシムルモ始終此点ニ存留シ能ハサルハ確証スヘト
ナリ
耕作物ノ分量ニ於ケル減額アレハ大ニ權衡ヲ失スヘシ
丈レ借地法善良ナレハ随テ耕作善良ナルモノナリ右ニ
付キ地主輩モ善良ナル借地法ヲ定メ耕作ノ進歩ヲ見シ
テヲ企圖セサルヘカラス下作者ニ於テモ亦同様に企
圖アルヘキナリ是レ蓋シ此五六年來能ク知ラレタル凶
年ノ尙大ニ耕作資金ヲ損失セシカ故ナリ而シテ此損失
ヲ償フヘキ時期ヲ要スルニ然リト雖モ余輩氣運
回復ノ時ニ於テノミ或ハ終ニ此損失ノ補償ヲ望ムヲ得
ヘシト信スルナリ

堀達譯

横濱「ゲマパン」ガゼット新聞抄譯

千八百八十年十月二十三日刊行

正貨流出ノ辨

抑本年度歳入出豫算報告書ノ公布ハ未タ信ヲ公衆ニ取
ルニ足ラサルモノ少ナシトセス故ヲ以テ此時ニ際シ財
政ノ困難其極ニ至リシ所以及ヒ内國ノ疲弊其極ニ達セ
シ所以ヲ討究シ以テ官民ヲシテ其原因ノ伏スル所ヲ知
ラシメント欲スルナリ
余輩カ豫テ今日アルヲ知リシニ違ハス前大藏卿カ政畧
ハ正ニ失敗シテ破産ノ期旦暮ニ切迫シタルヲ知ル其印
刷機械ヲ以テ紙片ニ印シ而シ通寶億方アリト稱シ一時
ノ安ヲ彌縫セシ其久シカラサル十二年間ノ奢侈モ最早

覺ノテ今又痛ク人民ノ頭上ニ墜タタリ而メ本年度ノ歳
入其實價ヲ失スルアルニモ拘ハラズ當局者ハ尚ホ今日
諸般ノ弊害ノ因テ醸生スル病根ナル其紙幣ノ消還ヲ噴
タトシテ説ク者ニ抗スルノ色マルハ何故ソヤ此時ニ際
シ宜ロシク國土ノ地位何処ニアルヤ又國土ト其治者ト
ノ間ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ顧ミル可キナリ
夫レ日本帝國ハ其幸福繁榮ヲ開タノ天然ノ利益ヲ享有
スルハ天下稀ニアル所ニシテ四面海ニ瀕シ土地膏腴氣
候中和ヲ得人ハ勇敢ニシテ進取ノ氣象ヲ具シ山海ノ物
産アリ貿易アリテ大ニ成ス所アラントセシモノ今ヤ稍
ク衰色ヲ呈シ去ル十年間ノ盛昌ナル觀ハ大ニ消滅シタ
ル所アルカ如シ其貿易ハ官府ノ干涉スル所トナリテ有
害ナル制限ヲ以テ蹂躪サレタル上而モ數人ノ壟斷スル

所トナリテ不正不法ノ事少ナカラズ是レカ為メ寸進尺
退ノ色ヲ表セリ始メ明治政府ノ政權ヲ執ルニ至リシヤ
主トシテ従前人民ニ貿易ノ權利ヲ許有セシムルハ國家
ノ得策ニアラス「思惟セシ禁ヲ解キ人民ヲシテ貿易ニ
従事セシメ以テ日本貿易ノ維持ヲ事トセリ而メ國家亦
其恩惠ニ浴シ悦喜スル所少ナカラサリシニ今ヤ斯ル限
リアル貿易スラ官府ノ犧牲トナリテ其稍ク人民ノ所握
ニ歸セシモノ亦官府ノ奪フ所トナラントス是ヲ以テ我
カ外人ノ利安ハ正ニ蹂躪サレル所アラントス故ニ余輩
ハ其根源ヲ施政上ニ發スル惡弊ヲ今ニシテ鋤伐洗除ス
ルノ策ヲ講スルニアラサレハ其日本政府カ我カ外人ニ
許ス所ノ幼稚ナル貿易モ亦類折スルニ至ルノ憂ナキニ
アラサルヲ以テ今此ニ其惡弊ヲ天下ニ曝露スルモ亦不

可ナカル可シ

夫レ當局者ハ商業ニシテ干涉シ能ク可キノ事業ハ盡ク
壟断ヲ恣ニシ其為ス所私利ニ攷タナラサルナクシテ毫
モ國家ノ公益ヲ顧ミス即チ農民ヲシテ官府自ラ定ル所
ノ米穀相場ニ準シ金納ノ制ニ遵ハシメ而メ其農民カ好
市場ニ糶賣セントスルノ虞アルニ由リ其糶賣セントス
ルモノニハ運送費ヲ課シ以テ出入相適ハサラシムルノ
制ヲ設ケ豫シメ其虞ニ備ヒタリ官府ハ此等ノ手段ヲ施
シ以テ購ヒ得タル米穀ヲ海外ニ運搬シ賣却シタリ然ル
ニ従前海外ニ米穀ヲ船載セシト少ナカラザリシト虽モ
近来絶テ船載ノトヲ聞カサルナリ其海外ニ致シタル米
穀ノ益金ハ獨リ外商カ其不正品ニ正金モテ拂フタル額
ト當時ノ内國相場トヲ相對較シテ知ルヲ得ベキト虽モ

當局者ハ其益金ヲ極メテ掩蔽秘密ニ附シ洩聞ナカラシ
メタリ然ルニ幸ニシテ斯ル舉止ハ世議公賤スル所トナ
レリ若シ之レナカラシハ永ク斯ル商業ハ二三ノ者ノ掌
中ニ陷チ壟断ヲ恣ニセラレ遂ニ大害ヲ國家ニ来タスナ
キヲ保ス可カラザリシモノナリ又沿海通商ハ人民カ頼
リテ以テ各自ノ産物ヲ好市場ニ致タスノ至便ノ道路ナ
リ然ルニ其沿海通商ノ如キモ亦一私人ノ掌握中ノモノ
トナリテ壟断ヲ私セラレノ具トナレリ蓋シ此一私人
ハ内外通商ノ貨物ヲ各處ニ運搬シ以テ得ル所ノ莫大ノ
益金ヲ配賦攫取スル数人ノ代人ナリ抑當局者カ制限ヲ
立テ人民ヲ抑制スルト至ラサルナキ中ニモ條約上公許
ノ五港ノ内某港ノ外米穀ノ輸出ヲ禁シ而メ米穀ヲ其港
ニ致タスモノアル時ハ其米穀ヲ船貨同様ニ目シ稅ヲ課

シ容易ニ右ノ港ニ致スヲ能ハサラシメタルカ如キ其最
タリ當局者ハ此等ノ手段ヲ以テ十分意ノ如ク人民ヲシ
其通商ヲ渾テ條約港ニ頼ラサルヲ得サラシメタルヲ以
テ今ヤ又其代辨人及ヒ夥黨ヲ使役シ尚ホ進ニテ輸出上
ニ於テ上等ノ地位ニ居ル物産ニ及ホシ以テ私利ヲ攫取
ヤントノ思考ヲ抱キ其通商ニ干涉シ遂ニ政府ハ人民ノ
生産物ヲ專用即チ強迫手段ヲ以テスルアルモ人民ハ黙
々其權勢ニ畏服シ敢テ抗スルノ色ナシ蓋シ此生産物ハ
從來外國貿易ノ主品ヲ組織スル最モ廉且ツ切用ナル輸
入品ニ相頡抗スルモノナリ故ニ政府ハ斯ル不法ノ舉止
ヲ世議セラル、トナク、遂ニ其内外貿易ヲ悉ク掌握中
ニ弄セントスルモノニ似タリ其數年間騙欺詐術ヲ逞フ
セシ所以ノモノハ貿易平均ヲ失シ金貨濫出セシヲ救醫

セントセシニアルカ如シ而ルニ遂ニ今日ノ財政困難ヲ
目スルニ至リタルハ亦恠ムニ足ラサルモノナリ余輩ハ
信ス政府カ夙ニ採ル所ノ主義ハ真理ニ背戾スルモノナ
ルハ業已ニ露白シ了レルヲ況ンヤ會計報告書カ證スル
所其外國貿易ノ害ヲ説ク者ノ常ニ頼ンテ其根據トナス
所ノモノ、誤謬ヲ破ルアルニ於テコヤ
凡ソ一邦ノ人民他邦ノ貨物ヲ仰ク彼ノ我ニ入ル我ノ彼
ニ出タスニ超過セハ其超過セシ分ハ常ニカノ名称區々
ノ通寶ナル貴金屬ノ物貨ヲ以テ之ヲ償ハサルヲ得サル
ハ言論ヲ待タズシテ明瞭ナルモノナリ又政府物品ヲ海
外ニ仰カハ其價ハ正貨ニテ拂ハサルヲ得サルハ亦昭カ
ナリ何ントナレハ金札日本ノ境域ヲ離レハ其効ヲ失
ハナリ今ヤ其海外貿易ハ日本ニ害アリテ益ナキモノト

ノ思想ヲ抱ク者カ千八百八十年六月ヲ以テ終ル上半期ノ貿易平均ハ其有害ニシテ無益ナレ著ルシキ証ナリト明言セリ而ルニ余輩モ亦當時ノ関稅報告ヲ取テ我カ論據トナサント欲ス即チ輸入出入額ヲ概示スルヲ左ノ如シ

輸入高	三六、二九一、一一四 ^四
輸出高	二七、八三七、九六五
輸入ノ輸出ニ超過スル ^一	八、四五三、一四九
右超過高ヲ填補センカ為メ正金ノ輸出セシ ^一 左ノ如シ	一四、一五三、六六九 ^四
輸出金額	五、〇六八、三六二
輸入金額	九、〇八五、三〇七
正貨ノ輸出セシ ^一	

若シ夫レ貿易平衡ヲ得ンカ為メ此ノ如ク巨額ノ正金ヲ

要スルアラハ政府必須ノ物品ハ果シテ何處ニ算入ス可キ乎余輩曾テ主張ス正金流出ハ主ニ政府ノ需要品ニアリト而ノ會計報告書ハ此點ニ就キ一々正金モテ拂フ可キモノ、科目ヲ舉クルヲ左ノ如シ

外國債及 ^二 其利子等	一、七三八、六〇一 ^四
海外旅費及 ^二 留學生費	二八〇、〇四二
陸海軍ノ軍需 ^一 <small>兵器、衣服、帆布、網具等</small>	二、一一六、六三六
驛遞費	一七、一一二
警察署用衣服購求費	一一五、七〇〇
諸作業機械購求費	三〇七、八三四
メルボーロン萬國轉覽會費	三〇、〇〇〇
外國公館費	八二一、〇〇〇
總計	五、四二六、九二五

右ノ外現今着手ノ鉄道建築材料軍艦官府ノ設立ニ掛ル
漁船會社ノ新商船等ノ購求又ハ外國教師諸省傭外人ノ
給料自他人民一般ノ負擔ニ掛ル正金拂ノ物貨等ヲ算入
セサル可カラズ若シ此等ノ正金拂ヲ僅ニ三百五十万圓
ノ前後ニアリトスルモ正金流出ノ概額ヲ推知スルニ足
ル可シ然ラハ海外貿易果シテ其平均ヲ失ハスト謂フ乎
夫レ然リ雖然在留外國人遊歷人及ヒ船舶ノ備品等トナ
リテ日本物産ノ外人ノ手ニ消費サレ輸出表ニ載ラサル
モノ少々ナラサルアリ之ヲ再言セハ在留外人ハ其生活
ノ為メ年々日本ニ拂フ金額ハ幾万ヲ以テ算フ可カラサ
ルモノニシテ而シテ其金額ノ幾多ノ額ハ金錢自ラ其額ヲ
表スルヨリ負カニ人民ニ於テ須要ニシテ利益アル物貨
ヲ以テ拂ハル、モノナリ左レハ其官府及ヒ他ノ者カ其

貿易平均ヲ説クモノ皆ナ其當ヲ失フタルモノナリ蓋シ
其平均ノ真理ヲ説カント欲セハ人民カ此國ニ居テ借ル
外人ノ目前ヨリ得ル利益ヲ推知シテ始メテ談ス可キナ
リ
政府未タ曾テ年々海外ニ送出スル正金ノ實額ヲ公白セ
シトアラス先年マテハ其流出正金ノ幾分ハ米穀輸出ア
リシヲ以テ相ヒ償ハリシト雖モ現今米穀輸出ノ事業ハ
廢止ニ就キシヲ以テ其代トシテ生絲茶ノ二品ヲ之ニ充
テタリ此二品ハ素紙幣ニテ成リ而シテ海外ニ抵テ正金ニ
変スルアルモ真正金ハ未タ曾テ此國ニ入テ流通セシト
アラサルナリ
之ヲ要スルニ政府カ需要品ヲ得ニカ為メ紙幣ヲ發售シ
以テ得タル正金ノ輸出實ニ今日ノ財政困難ノ原因ナル

又外國貿易ヨリシテ日本紙幣ノ下落ヲ来タスナキ
又在留外人ハ政府カ海外ニ流出シタル正金ノ幾多ヲ再
ヒ此國一返致スルノ機械タルトノ真理ヲ人民カ開悟ス
ルニ至リ始メ財政改革ノ正義ヲ唱フ可シ斯ル真理振
起スルノ日來ルニアラザレバ余輩亦日本帝國ノ貿易上
ニ進歩ヲ期スルヲ能ハサルナリ

堀達譯

横濱ヂヤパンガゼット新聞抄譯

千八百八十年十月二十三日刊行

讀十三年度歲入出豫算書

千八百七十九年三四月ノ交ニ於テ余輩ハ内政改革ノ數
篇ヲ草シ其篇中日本政府諸省ノ經費ヲ英國政府諸省ノ
其位置ニ當ルモノ、經費ニ對照比較ヤシモノヲ我カ紙
上ニ載セタリ今マ再ヒ經費ノ各科目ヲ對照比較セント
欲ス蓋シ亦敢テ無益ノ業ニアラスト信セハナリ
今マ各省費ヲ詳細ニ對照比較シ得キ内ニモ就中内務
大藏ノ兩省及ヒ開拓使ノ如キ最モ綿密ニ對照比較スル
ヲ得可キモノトサテ大貌利顛ノ内務本省及ヒ其所轄
ナル製造開鑿鑛山埋葬勸業學校監督及ヒ漁獵監督諸局

ハ其總經費トシテ每歲九萬三千七百九十三封即チ四十
六萬八千九百六十五圓ヲ政府ヨリ受取ルモノトス而シテ
日本内務本省及ヒ其所轄ノ衛生、勸農、種蓄、地理、土木、博物、
管船、諸局及ヒ小笠原島出張所ハ其豫算經費トシテ百
三十二萬九千八百四十三圓ヨリ少ナカラサル高ク領シ
其内六十五萬九千六百十九圓ハ俸給、廳費及ヒ雜給ニ充
ツルモノト云フ此六十五萬圓余ノ巨額ヲ舉ケテ僅ニ一
省中ノ官吏ノ要ニ供スルハ素ト人民ノ膏血モテ冗負ヲ
養フノ餘地多キニ由ルアルヨリ他アラサル可シ何ント
ナレハ英國內務省ノ事務繁多ナル日本内務省ノ比ニア
ラスト虽モ其費ハ却テ日本内務省費ヨリ少ナクシテ事
務上何等ノ渋滞ナク事舉カルヲ目スレハナリ
今ヤ筆ヲ轉シテ大藏省ニ入ラント欲ス是レ殊ニ注意ヲ

要スルモノナリ大貌利顛カ其大藏省ニ許ス所ノ經費ハ
上司ノ俸給ニ租稅院會計檢査院及ヒ國債局以上ノ經費
ヲ合算シ十二萬二千九百六十一封即チ六十一萬四千八
百〇五圓ニ過キタ然ルニ日本大藏省費ハ一百四十八萬
七千七百圓ニシテ其重立チタル科目ヲ舉クレハ俸給ニ
六十七萬六千六百十七圓廳費ニ十五萬二千二百七十一圓
雜給ニ三十八萬八千二百〇二圓貨幣取扱ニ九萬七千二
百七十九圓此總計百三十一萬三千三百六十八圓ナリト
ス是ニ由テ之ヲ觀レハ日本大藏省カ其吏員ニ支出スル
俸給ノミニテ英國內務省ノ總經費ニ超過スルト既ニ一
割又其廳費ト雜給トヲ總括シ而シ其高ニ七萬五千圓ヲ
加ヘハ英國內務省ノ經費概算ヲ構成スルニ至ルモノト
ス

要スルニ日英兩國大藏省ノ事務職掌ノ間ニハ實ニ比較
ス可キモノナキト言フモ敢テ過言ニアラサルカ如シ是
ヲ以テカ世人歎シテ曰ク英國人民ノ豐富ナルヲ以テ
ラ政府歳入ノ一厘五毛ヨリ多カラサルモノヲ負擔スル
ニ何ヲ以テ其疲弊困頓シタル日本人民ハ其國計ヲ支持
スルカ為メ歳入ノ二分五厘ノ多キヲ負擔スル哉ト蓋
歎ノ此ニ至ルモノハ人情ノ免レサルモノナリ今天藏本
省租稅局會計檢査院及ニ國債局ノ長官ヲ初メ其僚屬ノ
俸給ヲ併セテ二万四トシ又右等ノ分課ノ經費ヲ一課ニ
付キ壹万二千四トセハ日本國會計ニ係ル事務ノ總費用
ハ五十万四ヲ出テスシテ事足ルニ至ルナラン而モ異日
國會開設ニ至ラハ議員ハ本年度豫算ノ如キハ痛ク拒ミ
銳意以テ其半額若シクハ三分ノ二ヲモ減省スルヲナシ

トス可カラス

今又一步ヲ進メテ開拓使ニ入ント欲ス夫レ該使ハ百
八十三万四千百九十トノ巨額ヲ占領ス而メ其九分ノ四
ニ居ル七十四万三千四百七十四トハ實ニ左ノ科目ヲ組
成スルモノトス即チ俸給ニ二十三万二千百四十二ト廳
費ニ九万九千〇十三ト雜給ニ十五万五千二百八十九ト
建築修繕ニ十四万五千四百八十一ト農事試驗ニ十一万
一千五百四十九ト以上是レナリ其餘ハ警察學校病院物
産取扱囚獄等ノ費用ニシテ又別ニ由来ノ知レサル殘餘
六十九万八千七百七十六トノ一項トス而メ此驚ク可キ出
費ヨリ入ル所ノ益金ナルモノ三万三千百四十一トアリ
是レ即チ開拓使諸作業益金ノ名ヲ以テ歳入明細表ノ中
ニ掲出スルモノニシテ此益金ハ二十二箇ノ製造所ノ所

得ナリト云フ左スレハ一箇所ノ益金平均千五百。六四
ニ過キサルモノナリ豈ニ貴キ事業ナラスヤ今此等ノ貴
キ諸作業ノ益金ヲ俸給等ニ比セハ即テ俸給ノ一割五分
ニ居リ又其至妙至便ナル雜給ニ比セハ二割二分ニ居ル
ニ過キサルモノトス又其歲出明細表ヲ見ルニ札幌ヨリ
シテ商業モナキ無人ノ境ヲ通シテ鐵路ヲ建築セントシ
タルトニ就テハ別段費用ノ見込高ヲ掲出セス是レ恐ラ
クハ大藏卿其人モ斯ル土木ノ費用ヲ曖昧ニ附シ以テ日
本人民ヲ籠絡セントスルハ覺束ナキト思惟サレシニ
由リ簡易ニ六十九万八千百七十六圓ノ殘餘ナル一項ヲ
設ケテ之ヲ包括セラレシ所以ナル歟實ニ本使ノ俸給廳
費雜給ノ三項(此總金四十八万六千四百四十四圓)ヲ英國
殖民事務所ノ經費ニ比セハ霄壤ノ差モ啻ナラサルナリ

夫レ開拓使ニハ僅ニ黒子丸ノ植民地事務取扱ニ書吏三
百七十名ノ多キヲ使用ス然ルニ英國ニ於テハ五十四箇
所ノ植民地アリテ其カ總事務所ニハ僅ニ三十二名ノ書
吏ト七名ノ寫字生ヲ使用ス尤モ東印度ノ事務ハ該事務
所ノ與ル所ニアラサレド其倫敦植民事務所ノ經費ハ僅
ニ三万九千二百七十七圓十九分六厘。八十五圓ニシ
テ日本開拓使カ其官吏ニ支給スル所ノ俸給一項ノ高ヨ
リ尚ホ寡キヲ實ニ二万二千圓ナリトス然ルニ世人若シ
開拓使ノ官吏ハ躬親ヲ本土ニ臨ニテ其業ヲ執ルヲ以テ
倫敦植民事務所ニ比較スルハ其當ヲ得タルモノニアラ
ストセハ余輩更ニ香港ノ的例ヲ引証セン看ヨ香港植民
地ヲ該植民地ノ事務ハ行政司法教育衛生等百般ノ制度
ヲ施行セサルハナク而ノ其事務ノ繁劇ナル亦札幌本廳

ノ事務ト日ヲ同フシテ語ル可ラスト虽モ香港本廳ニハ
 書吏ニ勘定役翻譯官ヲ加ヘテ其数三十二名ニ過キスト
 云フ誰レカ敢テ之ヲ多キト謂フ乎
 抑、蝦夷开拓ノ為メニ支出シタル金額ハ本年度ノ豫算
 額ヲ併セテ千六百〇二万七千三百〇八円ニ達シタル巨額
 ヲ舉ケテ此効ナキ开拓ニ消費シタルハ豈ニ不廉ノ至リ
 ナラスヤ實ニ斯ル金額ハ久シク渴望サレタル日本國ノ
 最モ富優ニシテ最モ人戸稠密ナル數處ニ鐵路ヲ興シ道
 路ヲ開ク出費ニ下ラサルモノナリキ又右金貨ヲ以テ若
 シ内地ト海邊トノ通路ヲ開クノ費途ニ供シ来リシナラ
 ハ其舉ヨリ釀生スル所ノ便益亦殖産ノ道ヲ振起シ今日
 其効ヲ見ル可キモノ少ナカラザリシヲ惜ム可シ策此ニ
 出テスシテ徒ニ勞役ト費用トヲ効ナキ开拓ニ浪費セリ

其成果ニ至テハ實ニ無効ヨリ尚ホ甚シキモノアリ蓋シ
 斯ル無益ノ事業ヲ今日ニ至ルマテ苟モ内閣諸公其人ニ
 シテ一タヒモ其興廢可否ニ論及セザリシハ實ニ追フ可
 ラサルノ悔ナリ

今ヤ余輩ハ日本公使館及テ領事館ノ費用ヲ英國公使館
 及テ領事館ノ同派遣國ニ在ルモノニ比較セント欲ス但
 シ在英國日本公使館ヲ在日本英國公使館ニ比對スルモ
 ノトス領事館モ亦之ニ倣フ日本國ハ歐米兩洲ニ九箇所
 ノ公使館ヲ張設ス而ノ其經費ヲ英國ノ分ニ對照比較ス
 ル下左ノ如シ但シ英國ノ分ハ豫算ト知ル可シ

駐在國	日本	大貌利顛
大貌利顛	六八〇六九	
日本		三〇、八〇〇

露斯亞	七五八六四	四九、五〇〇
佛蘭西	七〇、三二九	六〇、七五〇
合衆國	六六、五八四	三五、五〇〇
日耳曼	五六、七二九	四二、〇〇〇
以太利	五六、九一五	四二、二五〇
奧地利	五一、一九四	四八、五〇〇
阿蘭陀	五八、三四三	二三、七五〇
支那	五一、〇三九	四四、〇〇〇
通計	五五五、〇六六	三七七、〇〇〇

表中必印ヲ附スルモノ英國大使駐在ナリ

夫レ大貌利顛ハ歐洲ノ一大強國ニシテ七万五千四百十封即チ三十七万七千〇五十四ノ經費ヲ以テ大使五人公使館四個ヲ維持ス而シテ英國ノ地位タルヤ毎ニ歐洲ニ混

雜ナル政事上ノ問題起ルニ際シ其事件ニ參與セサルナキト雖モ其公使ノ職トスル所ノモノハ英國カ世界上貿易ノ七分二厘五毛ヲ占ムル其利益ヲ視察保護スルノ要ニアリ之ニ反シ日本國ハ東洋ノ一小國ニシテ歐洲事件ニ関シテハ痛癢ヲ有セス又保護ヲ加フ可キノ利益アル貿易ヲ有セス且ツ又萬國ノ公會ニ臨ムモ何等ノ勢力ヲ有セス剩サハ國帑窮乏ヲ告ケ人民疲弊ニ苦ムノ秋ニアリナカラ九個ノ公使館費トシテ五十五万五千四余ノ金負ヲ支出ス其費ノ多キヲ富強ナル英國亦其三分ノ二ニ居ル蓋シ斯ノ公使館ニ外交使館ヲ張ルカ如キハ徒ニ國威ヲ虚飾セント欲スルノ意ヨリ他ナラサルモノニシテカナル舉ヨリ一ツモ國益ヲ増スカ如キヲアラサルモノナリ

余輩ハ敢テ無用ノ辨ヲ好ミ徒ニ日本人民ノ怒ヲ招クヲ
 好ムノ徒ニアラスト虽モ其日本國カ禮ヲ以テ親ニ萬國
 ニ固フヤセント欲スルノ決意ト其進步ノ駸速ナルトヲ稱
 揚ス可キヤノ問題ニ至テハ余輩臺モ假借スル所ナク直
 言以テ之ヲ裁断セン夫レ日本カ今日疲弊ノ秋ニ際シテ
 木偶同様ナルモノニ貴キ仕送ヲ為シ以テ歐米諸國ノ競
 争對峙セント欲スルハ未タ其時ニアラス又到底成シ難
 キノコトナリ
 抑々日本國ヨリ外國ニ張設スル領事館費ハ其公使館ニ
 供スルモノヨリ割合ニ多キヲ要スルカ如シ而シテ其數ヲ
 見ルニ總領事館二領事館九副領事館十二アリ其經費左
 ノ如シ但シ貿易事務館ノ如キハ措キテ問ハス
 上海 二八〇八〇四

倫敦	一八、五七七
馬耳塞	七、八〇七
紐約克	一七、一五九
桑港	一六、九一六
香港	一六、九四二
天津	一四、九八五
哥尔薩	六、二九二
浦潮港	一〇、六一一
元山	二六、二四〇
釜山	一七、三五〇
小計	一八〇、九六〇
備付金	一四、一七五
雜件	四一、〇〇四

總計

二三六、一三九

又大貌利顛政府ハ領事館ヲ上海、神奈川、馬耳塞、紐約、克桑
 港及ニ天津ノ各處ニ設置スルヲ以テ其英國領事館ナキ
 ノ地ニハ等シキ館費ヲ配附シ以テ其代トナシ對照比較
 ニ便ナラシム即チ上海領事館費ヲ元山總領事館費ニ神
 奈川領事館費ヲ釜山、香港ノ兩領事館費ニ比シ哥爾薩浦
 潮港兩所ニハ四千四百宛ノ金負ヲ配付シ自他諸雜費ヲ加
 ハ都合十一箇所ノ總經費十一萬九千五百八十圓ニ出テ
 ス今之ニ日本領事館總費ノ二十三萬六千六百十九圓ヲ比
 較セハ日本領事館費ノ多キヲ實ニ十一萬五千四百餘トス
 蓋シ英國政府ノ俸給ヲ支出シ給與ヲ下賜スルノ寬泰ナ
 ル制ヲ以テスラ猶ホ此ノ如シ之ニ準シ公使館費ニ至テ
 ハ其差違想像ス可キナリ今若シ日本政府亞米利加洲ニ

於テハ華盛頓府ニ四萬圓ノ經費ヲ以テ一箇ノ公使館ヲ
 設置シ又歐洲ニ於テハ佛京、巴黎ニ一個ノ公使館ヲ設置
 シ以テ同洲諸國駐劄ノ公使ヲ一人ニテ兼子シメ之ニ給
 スルニ其公館ノ諸費ヲ始メ旅行費等ヲ併セテ十萬圓ヲ
 以テセハ亦日本ノ公益公使數人アルノ日ト一人アルノ
 日ト更ニ異ナル所ナクシテ實ニ四十萬圓ノ冗費ヲ省畧
 スルヲ得ヘシ要スルニ經濟ノ法宜ロシキヲ得ハ諸外國
 公館ノ費用少ナクモ現今消費スル額ノ半額ヲ省畧スル
 ニ至ル亦期シ難キノコトニアテス實ニ往々世ノ經驗者ヲ
 シテ日本政府ハ外交ニ関シ費スル額ハ果シテ其報告
 書ニ言フ所ニ違フ所ナキヤト怪訝セシムルヲアリ蓋シ
 世ノ經驗者ノミナラス誰人ニテモ日本政府ノ會計豫算
 報告書ヲ閱シテ斯ル感觸ヲ起サバモ亦少ナカル可

シ
若シ夫レ本年度ノ如キ歳入出豫算ノ議案ヲ権カアル國
會議院ニ附シテハ議員ハ逐條其議案ニ審査ヲ加ヘ各省
ノ長官ヲシテ其俸給ナル七百三十六万六千二百十九圓
其廳費ナル百六十四万。四百。三圓其雜給ナル二百四
十七万。百八十九圓此總計千四百七十七万六千八百十一
圓即チ歳入ノ二割ニ近キモノハ何々ノ事故ニ因テ斯ル
金額ヲ要スルヤノ理由ヲ詳細ニ説明アラントテ乞ハシ
中ニモ故ヲニ其雜給ナルモノ、説明ヲ請求セン又何々
ノ事故ニ基キ斯ル大數ノ吏負ヲ要スルヤヲ糾明ス可シ
又就中此時ニ方テ内務大藏ノ兩卿ハ何ヲ以テ所轄スル
ノ局多クシテ其數ヲ減少シ能ハサルヤ如何ノ説明ヲ迫
ルヲナシトス可ラス又議院ハ開拓使カ今年ニ至ルマテ

二千四百十九万三千百。九圓ノ巨額ヲ消費シタル其任
譯書及ヒ其任拂ノ諸証書ヲ議場ニ差出サント及ヒ本年
度ノ經費トシテ百八十三万四千百九十九圓ヲ請取リタ
ル理由ヲ説明アラントテ其長官ニ望ム可シ獨リ此等ノ
省使ノミナラス自他諸官省ニ向テ議院ハ其會計ノ説明
ヲ乞フニ至ルヲナシトス可カラスサリトテ斯ル審査ヲ
遂ケ説明ヲ乞ント欲スル者ハ獨リ國會議院ノ敢テナシ
得可キモノニシテ其責ヲ受クヘキモノハ亦各省ノ長官
ニマリ斯ル議院ノ組織ヲ去ル十年間ニ成立セシメハ亦
今日内政用度ノ爲メ此ノ如キ巨額ノ金負ノ支出ヲ見ル
ヲナカル可キヲ寔ニ惜ム可キノ至リテリ
蓋シ余輩カ今希望スル所ノ内政改革ハ獨リ外國公館ノ
出費ノミニアラズ尚ホ且ツ諸省ニ於テモ改正釐革アラ

ンヲヲ希望ス実ニ此等ノ諸省ハ無数ノ冗官吏ヲ其堪フ
可ラサルノ苛税ニ苦ミ疲弊ヲ極メ大ニ激怒ノ色アル臣
民ノ膏血ヲ以テ養フモノナリ噫

堀達譯

エコノミスト新報抄譯

千八百八十年八月二十八日刊行

米國銀貨ヲ論ス

米國銀行者ハ例ニ依リテ年會ヲサラトガ府ニ開キ而シテ
種々ノ緊要ナル問題ヲ議シタリ其一ナル銀貨問題ハ現
行法律ノ大藏省カ銀貨ヲ鑄造シ發行スル其不可ナルヨ
リ人民カ其取引ヲ嫌惡スルニ至リタルヲ大ニ論究終
ニ二箇條ヲ決定シ以テ現行法律ニ追加セラレシメテ政
府ニ獻言スルコトノ決議ニ及セタリ其二條ニ曰ク
第一條 今後四百十二グレシ半ノ銀貨鑄造ヲ廢止シ從
來既ニ鑄造シタルモノハ銀塊ニ改造ス可シ但
シ銀ハ補助貨幣ノ缺乏アル時ニ限り鑄造ス可

キモノトス

第二條

大藏省ハ人民ノ請ニ應シ幾許高ニテモ銀塊ヲ
預リ成ル可ク時相庭ニ準シ預リ証券ヲ發シ通
用ニ供ス可シ

紐育コムメルシヤル、クロ子ノクル記者ハ此等ノ獻言ヲ
大ニ賛成シ此決議ハ大ニ公衆ノ意ニ適應スルモノニシ
テ亦敢テ之ニ嘴ヲ容ル、モノナカル可シトマテ稱讚セ
リ然リト虽モ余輩ハ此ノ如キ立案ハ果シテ銀貨問題ノ
正ニ其真理ヲ得タルモノナルヤ否ハ大ニ惑フ所ノモノ
ナリ唯余輩ノ見ル處ニ據レハ此ノ如キ証券ノ發行ハ却
テ銀貨ヲシテ混雜ナル地位ニ陷井ヲシムルカ又ハ大藏
省ヲシテ測ル可ラサル損失ヲ負ハシムルニ至ルカノ二
途ノ一ヲ避ク能ハサルモノトス請フ余輩ハ左ノ理由ヲ

陳述シ其所以ヲ詳明ニヤシ今若シ大藏省ニ銀ノ相庭一
オンス五志ナル時地金一千オンスノ預ケヲ申出ナハ預
ケ主ハ其交換トシテ大藏省ヨリ十弗證券百二十五枚ヲ
受取ル可シ又若シ銀一オンスノ價四志六片ニ下落シタ
リトセハ証券ノ價モ亦随テ低落セサルヲ得スサスレハ
其時ニ方テ十弗證券ハ亦其額十弗ノ實價ナキモノナリ
是レ諸般ノ取引上ニ太甚シキ混雜ヲ惹起ス所以ナリ又
之ニ及シ大藏省ハ若シ何時ニテモ証券ノ金額ニ必ク交
換ス可キモノトセハ銀一オンスニ付四志六片ノ市價ナ
ル際曩ニ一オンス五志ノ割ニテ一千オンス預ケ置キタ
ル者其証券ノ交換ヲ申出ナハ其原額一千オンスヲ渡ス
ニアラスシテ寧ロ一千百オンスヲ渡サバハ可ラス夫レ
此ノ如ク預ケ主等ハ銀價下落ノ時ヲ俟テ其証券ノ交換

ヲ迫ラハ大藏省ノ損失云フ可カラサルモノナリ
夫レ狀況己ニ此ノ如シ然ルヲ政府タルモノ敢テ斯ル立
案ヲ容ル可キ乎余輩信セサルナリ故ニ余輩ハ信ス米國
カ今日ノ銀貨困難ヲ救治スルノ真法ハ唯不用ノ銀貨ヲ
廢スルノ法律ヲ設クルヨリ他アラサルヲ

峯 源次郎譯

一千八百八十年十月三十日倫敦刊行ロンドン、アンド、
チャイナ、テレグラフィー新聞抄譯

日本ノ理財論

日本國ノ豫算ハ依然トシテ舊來ノ如ク一殊特別ノ狀態
ニ止マリテ數年前ノ舊觀ヲ改タルヲナキヲ見ルナリ而
シテ其豫算タルヤ甚々巧ニ編輯シテ極メテ詳細精密ヲ
尽シタルモノ、如シ然レ氏此詳細精密ナルカ如キニ
拘ハラス之レカ為ニ満足ノ見解ヲ下スニハ甚々不適當
ナルヲ覺ヘリ蓋シ近頃發生セル景況ニ依テ之レカ觀察
ヲ下スニ其豫算ノ完全ナラサルヲ見ルナリ實ニ日本理
財ノ豫算ハ一般ノ公衆ヲ欺罔スルニ止マルノミナルカ
故ニ之レヲ以テ欺騙ノ例ヲ置クモノト看做スヲ得ヘシ

右ハ日本政府ニ在テモ後悔スヘシト雖モ其誤謬ヲ明告
セス又タ是レヲ明告スヘキ良心上ノ勇敢ナカリシハ其
責メ全ノ日本政府ニ歸スヘキナリ日本ニ於テ濫發紙幣
ノ誤國ノ商業上ニ極惡ノ損害ヲ蒙ラシメタルハ疑ヲ容
レサレハ日本ノ理財官タルニハ此ノ如ク紙幣濫發ノ
政策ハ良策ニ非サルナリト決定ニ至ル前ニ早ク意ヲ此
點ニ認メサルヘカラサルナリ發行紙幣金額ノ幾何ナル
其精細ニ至リテハ何人モ之レヲ知ラサルカ如ク然リ且
レ其知ラサルモノハ知ラヌカ佛ト云フ譬ノ如ク却テ安
全ナルヘシ是レ若シ其額數タルヤ明細ニ公衆ノ知ル所
トナルニ於テハ其影響タルヤ一般ノ驚愕ヲ招クヤモ謀
リ難ケレハナリ夫レ日本政府自國ニ在テ其紙幣ニ非常
ノ下落ヲ来シ而シテ理財官タルモノ此下落ヲシテ相當

ノ價直ニサヘク回復スルノ策ヲ用ユルナクシテ英國
ニ於ケル日本負債ノ依然其從來ノ位置ヲ保有スルモノ
ハ實ニ驚クヘキナリ其負債從來ノ位置ヲ保有スト云フ
モノハ他ニ非ラス即チ外國公債證書ノ相場勢力ヲ有セ
之レニ詳説スレハ其外國公債證書ノ利子ヲ拂フテ屹
度定期額數ノ誤マラサルニ是ナリ蓋シ其位置ヲ保有ス
ルモノハ日本政府カ外國ニ信用ヲ保有スルカ故ナリ又
メ日本參議カ右等ノ如キ財政困難ノ場合ニ於テハ此度
急速ナル處辨ノ必要ナルヲ知ルニ十分敏捷ナレハナリ
是レ此ノ處辨ノ時期到来シテ更ニ新規ノ募債ヲ要スル
ニ至リテ大ニ旧日ノ處務關係ヲ有スヘシ今ヤ余輩ノ讀
者ニハ既ニ承知セシナルヘシト思ハルハ所ノ風説アリ
是レ他ニ非ラス日本帝國政府カ英貨二十万封度ノ外國

債ヲ起ヤント欲スルノ風説ナリ此金額ヲシテ非常ナル
過実ノ巨額ナリトシテ信ヲ置クニ足ラストスルモ然モ
此ノ如キ風説ノ因由スル所ヲ以テ視ルキハ日本理財ノ
有様ハ世上ニ公告セシ豫算ノ如キ隆盛ノ姿ニハ非サル
ヘキヲ証スハシ例之ハ會計大年度歳入豫算額ニ於ケル
増額ハ四百二十八万二千百二十七円ヨリ下メラサルハ
シ然レモ歳入額ト同額ニ歳出ノ豫算ヲ為スハ舊来同様
ノ方法ニ據レルヲ見ルナリ此ヲ以テ歳入額ハ不測ノ原
因ヨリシテ損害ヲ蒙ラサルヘカラサルヲ見ルナリ即チ
是ノ損失タルヤ國債償還ノ為ニ別ニ備ヘタル款條ニ落
トルナルヘレ是レヲ詳説スレハ歳入ト同額ニ至ルマテ
歳出ノ増加ヲ為スカ如キ方法ヲ設クルニ由テ不确实ノ
元素カ此豫算ニ現出シタルヲ見ル此不确实ノ豫算ハ終

ニ大藏卿タルモノ、世上ニ於ケル公信ヲ動揺失敗セシ
ムヘキモノナリ右議論ノ所見ハ千八百七十八年乃至七
十九年ノ豫算ニ據テ發論スルモノナリ該年度ハ「ジャツ
パン、メイル」新聞ノ説ニ據レハ國債千七百二十万三千六
十五円、減額ヲ表示スレモ前件ノ次第ニ依テ之レヲ觀
レハ是レ理財上ニ於ケル危險ノ来ル當ニ近キニ在ルヘ
キ真ノ確証ナルナカラシテ予而シテ日本國ニ於ケル重大
ノ安全ヲ保有スル為ニ良策ヲ採用スルニ非ザレハ日本
參議諸公ハ身自カラ謂フニ必セサルノ困難ニ罹ルヲ見
ルニシ日本國債金額ハ三億五千八百四万七千二百九十
円ナリ而シテ準備金ハ五千三百三十二万五千五百十五円
ナリ此準備金額ハ（或人々考案ニ依レハ）巨額ノ紙幣ヲ流
通ヨリ引上ル為ニ大功ヲ奏セサルヘカラサルモノナリ

是レ此ノ國債ノ為ニ切迫シタル理財上ノ恐慌ヲ程能ク
停止スルヲ得ヘキ無二ノ媒介物ナリト謂フヘキナリ
歳出豫算ノ増額ハ海陸軍省ニ於テ大ニ増加セルヲ見ル
ナリ是レ水雷火學校設立ノ為并ニ海防策ノ當今ノ方法
ニ從テ使用スヘキ機械購求ノ為ニ要用ナル金額ヲ拂フ
ルニ歸セリ此他又々日本國ノ根本タル耕作ニ於ケル救
荒貯蓄ノ為ニ入費ヲ要セシカ故ナリ夫レ歳出ノ一大款
條ハ最初ヨリ政府自カラ手ヲ下シテ諸製造所ヲ設ケ人
民自個ノ家業ヲ驅逐スルノ不良ナル政策ニ歸セリ此等
製造所ハ商法上ノ点ヨリ所見ヲ起スニ甚メ利益ナクシ
テ始終大藏省ノ損失ヲ来セリ然レ此方法ヲ採用スル政
府ノ善眼ハ國ノ利源ヲ起シ且ツ歐洲ノ進歩シタル開化
ヲ一時ニ熱心レテ模寫シ人民ヲ指導シテ工業生産ノ高

度ニ進マシメント欲スルニ在リシヲ見ルナリ日本政府
米專賣ノ權ヲ有シテ他ニ又々商業上ノ投機事業ヲ為ス
ト考察ヲ下スキニ其真ノ主意ハ政府ノ利益ノ為ニ非サ
リシヤ未タ知ルヘカラス甚メ疑ヲ存スヘキナリ是事々
ルヤ自餘政府ノ干涉ニ出タル諸般ノ企圖ノ如ク其結果
ノ失敗シタルカ故ニ政府今ヤ之レヲ各個人ノ為ス所ニ
放任シタル由ヲ聞クニ及ヘリ此更改ヲ為スニハ如何ノ
方法ニ依リシカ其詳細ヲ聞クニ由ナキナリ然レモ其採
用サレタル方法ノ如何ヲ問フス工業及ヒ諸般ノ進歩ノ
為ニ教年間政府ノ費用セシ報酬トシテ巨額ノ金貨ヲ政
府ニ納メサルヘカラサルナリ乃チ利源ヲ起サント欲ス
ル試験ノ甚メ高價ヲ以テ買ハレタル誤ナルカ故ニ此舊
古教授ノ代價タル真ニ巨額ニシテ永遠敢テ忘却シ能ハ

サル程ナルヲ見ルナリ然レモ日本國理財ノ為ニ參議諸
公此ノ如キヲニ干渉セズ此等ノ所為ヲ廢止セハ國民々
ルモノ誰カ敢テ此巨額ノ費用ヲ怨嗟スルモノアラシヤ
日本ニ於テ豫期セシカ如ク既ニ多クノ誤謬ヲ為シタレ
ハ猶又々此後共ニ多クノ誤謬ヲ為スヘシ然レモ大藏省
ニ於テハ能ク注意ヲシテ欲スルナリ夫レ危險ノ事
ハ巧智ノ過キタル施設ニ在ルモノナリ殊ニ新規組織ニ
タル國ニ於テ然リトス故ニ日本參議諸公ハ其文明開化
ノ胡蝶ノ状態(達林ニ達ニ開化ノ半)ニ達シタルハ漸ク近頃
ノ事ナリレヲ忘レヘカラサルナリ

堀達譯

横濱「ヂヤパン」ガゼツト新聞抄譯

千八百八十年十月三十日刊行

千八百八十年十月廿七日三條實美閣下ノ名ヲ以テ金札

引換公債証書ノ規則公布ナリタリ

其規則ノ條々左ノ如シ

第一條 金札引換公債証書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支

消スル為メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フ

モノトス

第二條 金札引換公債証書ハ記名ニシテ五百圓百圓五

拾圓ノ三種トス

第三條 何人ニテモ(外國人ヲ除キ)前條ニ記載スル各種

証書面ノ金額ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債証書ニ交換

スルコトヲ得可シ

第四條 金札引換公債証書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截断ス可シ

第五條 金札引換公債証書ノ元金ハ其証書交付ノ年ヨリ三ヶ年据ヘ置キ四ヶ年目ヨリ向フ十二ヶ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年百分ノ六トシ元金消却ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡ス可シ

右擧ル所ノ箇條ノ外仕拂等ニ関シ尚ホ数條アリト雖モ今爰ニ要ナキヲ以テ畧ス

夫レ政府發行紙幣ノ信用ヲ復ヤンカ為メ近來種々ノ方畧ヲ施行サレシト一ニシテ足ラスト雖モ皆ナ切ヲ奏セス今發行ナリシ金札引換公債証書規則ノ如キモ亦到底

其切ヲ效タスヲ能ハサルモノナルハ既ニ自ラ表スルモ

ノナリ第一紙幣下落ノ甚シキ最モ良実ナル債主ト雖モ其十五ヶ年間ニ金銀貨幣ニ交換サル、金札引換公債証書ノ交換ヲ願出ツルモノナキノ極ニアルモノナリ今千

圓ノ公債証書ニ仕拂フ利息ニ付キ聊カ説明スル所アラントス抑々現時ノ貨幣相庭ニ據レハ紙幣千圓ヲ以テ銀

一弗一四八十一錢餘ノ相庭ニ交換スル

ノ相庭ナリ今若シ右千圓ノ公債証書三年目ニ抽籤ニ當リ金銀貨幣ヲ以テ拂渡サレハ其額元利金ヲ併セテ千百八十圓ヲ得可キ勘定ニシテ亦百二十四弗四十五セントノ利益アルモノナリ即チ年利三割七分五厘ノ割合トス豈ニ美ナル報酬ナラズヤ此美ナル報酬アラハ人民ハ争テ公債証書ノ債主トラントテ政府ニ請フ可キハ必然

ナラン而ノ今債主タラシクヲ欲スルモノニシテ正金ヲ有シテ金札ヲ有セサルハ先ツ其正金ヲ紙幣ニ交換セサル可カラサルヲ得ス而ルニ余輩此公布出テシマ人心ノ向フ所ヲ觀察スルニ一人ノ敢テ其正金ノ五六百圓ハ勿論其半金ヲモ投シ以テ斯ル測リ難キ誘引ニ應セントスルモノナキカ如シ是ニ由テ紙幣ノ下落其甚キアルヲ知ル可シ

夫レ斯ノ如ク財政ノ状況今日既ニ其極度ニアラスヤ然ルヲ若シ此有様ニテ三年ヲ經テ正金引換ノ期ニ至ラハ財政困難ハ愈々益々重難ヲ極ム可キハ昭々ナリ實ニ今此大困難ノ挽回ニ就クノ徵候未タ顯ハレサルニ其輕率拙劣ヲ極ムル此度ノ公布ノ如キハ翻テ財政困難ノ地位ヲシテ日ニ重難ノ中ニ陷スモノト謂ハサルヲ得ス抑々政

府ハ素ト何等ノ期望アリテ金銀貨幣ヲ以テ其僅少ナル利金ノ仕拂スラ覺束ナキニ三年ノ後テ元金ヲ仕拂フト謂フカ如キ公布ヲ發セシマ又政府ハ何等ノ保証ヲ立テ以テ此舉ノ確實ナルヲ証シ得可キマ是レ最モ疑フ可キノ至リリ政府カ其金銀貨幣ヲ以テ公債証書ニ交換スルノ日ハ豫メ今日ニ期ス可キニアラスト虽モ只其最モ輕卒淺見ノ債主輩カ後悔臍ヲ噬ムモ亦追フ可カラサルノ時ヲ見出ス可シ然リト虽モ政府カ獨リ恃ム所以ノモノハ一ノ正金公債ヲ起スニアルノミ是レ余輩ノ既ニ政府カ或ルニ商會ト契約ヲ結ビタルヲ探知セシヲ以テ証トスル所ナリ若シ政府ノ策早晚此ニ出ツルナラハ今ニ債ヲ起スノ勝レル後日ニ至テ起スニ萬々ナラン今二千萬弗ノ正金債ハ政府ヲシテ能ク其困ヲ得セシメハ少ナ

クモ其發行紙幣三千五百萬圓ヲ消却スルノ要ニ供セラ
ル可シ而シテ右二千萬圓ノ債ヲ起スノ日ニ方リ人民カ負
擔ス可キ所ノ利息ハ百二十萬圓内外タル可クシテ其額
ハ亦此舉ヲ起スニ方リ避ク可カラサルモノナリ又其金
札引換公債証書發行ノ方法ニ至テモ人民タルモノ三年
ノ後ニ二千萬圓ノ負擔ヲ免レサル可シ且ツ其利息ニ至
テモ亦正金債ニ仕拂フ利息ト同額ナル百二十萬圓ヲ拂
ハサル可ラサルモノナリ然ルニ其債主カ二千萬圓ノ紙
幣ヲ以テ購求セシ實價ハ正金ニ折算セハ僅ニ千百萬圓
許ナル可シ故ニ今右二法ノ區別ヲ判断セハ第一金札引
換公債証書方法ハ二千萬圓ノ紙幣ヲ消却シテ僅ニ千一
百萬圓ヨリ多カラサル正金流通ヲ世上ニ來タスモノト
ス然ルニ第二正金債方法ハ三千五百萬圓ノ紙幣ヲ消却

シテ正金二千萬圓ノ流通ヲ世上ニ呈スルモノトス即チ
其消却額ノ第一方法ニ超過スルト七割五分ナリ是レ豈
ニ損益ノ昭々ナルモノニアラスヤ蓋シ正金流通高ハ其
通寶タル効力ヲ失シタル紙幣ノ截断高ニ準スルモノト
ス
世ノ所謂事務家ト呼ハレ經驗者ト稱セラル、モノニ
テ悪ンソ此公債方法中記載スルモノニ迷フモノアラシ
ヤ政府ノ為ス所常ニ親切懇信至ラサル所ナキハ誠ニ感
不可キノ至リト雖モ惜イカナ其為ス所行届キ過キルニ
似タリ何ントナレハ苟モ紙幣消却ヲ以テ已カ分トスル
所ノ方正著實ナル人ニ至テハ今陳述セシ如キ愚且ツ行
ハレ難キ言ヲナスモノハシサレハナリ要スルニ該公債
証書規則ハ三年ノ後ニ燦然タル金銀ヲ以テ照スニアラ

ミ スシテ空シク該公債証書規則ノ行ハレ難キヲ輝カスノ

大蔵省

